



歯舞地区マリンビジョン協議会事務局では、地域協働の取組みにより作られた『歯舞地区マリンビジョン計画(平成19年3月策定)』の行動計画について、個々の推進状況など、活動の様子について「歯舞地区マリンビジョンニュース」を発行して、地域の皆様方にお知らせしています。

発行・編集：歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

～北方領土学習会～

当協議会はマリンビジョン活動を広めるべく「講演会活動」を行ってきましたが、令和元年からこの活動を更に力を入れて取り組んだ結果、令和元年は10回以上の講演会を日本各地で実施させていただきました。この講演会活動をもっと広げていこうとしていた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大により、都市との交流事業が困難になったことから、地元の小中学生を対象にした「北方領土学習会」を実施することに致しました。

「北方領土学習会」は、北方領土と貝殻昆布操業に関する学習をメインに、これまでの市場・直販所・製氷工場・新事務所（工事中）の見学と合わせたもので、本学習会により、北方領土と根室の基幹産業である漁業に興味・関心をもってもらう事を目的に実施しました。

また、交流が出来ない都市部においては、以前から交流のある大学や組合学校と協力し、新たな取り組みとしてインターネットを利用したリモート講義を実施しました。

当マリンビジョン協議会が、コロナ禍で工夫して実施したこれらの取り組みを紹介させていただきます。

令和2年度 受入実績

日時	参加人数	学習会名
6月25日	14名	リモート特別講義（中央大学）
9月10日	14名	社会科見学（歯舞学園4年生）
8月21日	60名	北方領土水産学習（北斗小学校5年生）
9月3日	56名	北方領土水産学習（柏陵中学校1年生）
9月29日	12名	北方領土水産学習（根室市小中学校校長会）
10月29日	11名	リモート特別講義（全国漁業協同組合学校）
11月20日	25名	出前授業（歯舞学園9年生）
12月17日	50名	北方領土水産学習（啓雲中学校2年生）
12月18日	18名	北方領土水産学習（歯舞学園5年生）
12月18日	38名	リモート特別講義（東京海洋大学）

◆中央大学・全国漁業協同組合学校・東京海洋大学

新たな取り組みとしてインターネットを利用したリモート講義を実施しました。

昨年から本格的にスタートした講演会活動でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により困難を極めたことから、会議やコミュニケーションを取る手段としてコロナ禍で急激に普及が拡大した「Zoom」を用いて、試験的にリモート講義を実施する事となりました。

講義では、北方領土の歴史をはじめ、貝殻昆布協定を実現・再開させた「高碇達之助先生」「川端元治先生」らの功績について紹介させていただきました。また、歯舞地区マリンビジョン協議会の取り組みとして、水産物のブランド化（1部会1品運動）の他、トレーサビリティの導入に向けた取り組みについて紹介しました。

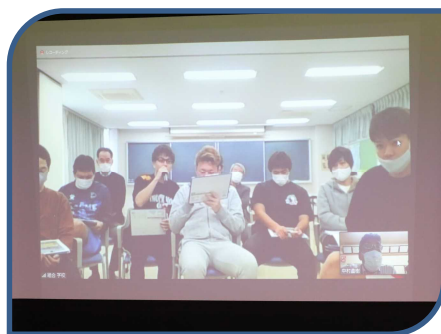
組合学校の生徒の中には、現職として漁協に勤めている方もおり、講義終了後の質疑応答では、他地区の漁業情勢などの情報交換を行いました。

大学生は、各々で決めた漁業に関するテーマをインターネットや文献を用いて調べているようですが、インターネットや文献では分からない現地の人の声を聞くことが出来ると好評で、大変貴重な時間になったとのことでした。

今後もリモートを活用し、協議会の活動を紹介していきたいと思います。



5/25 中央大学



10/29 組合学校



12/18 東京海洋大

歯舞学園 社会科見学

9月10日

◆見学行程 事務所 → 市場 → 製氷工場 → 直販所

歯舞学園が水産学習（はぼまい学）の一環で行っている、「歯舞組合の施設見学」の受入れを実施しました。

今回、受入れたのは歯舞学園4年生の14名で、まず始めに、事務所にて歯舞漁協の各部署の職員が日頃どのような業務をしているのかを説明しました。

次に製氷工場へ向かいました。当日の気温は25度と歯舞地区では珍しい夏日でしたが、製氷工場は常にマイナス5度に保たれている為、温度差は30度になります。生徒たちは「寒い!!」と言いながらも、普段できない体験を楽しんでいる様子でした。

市場では水揚げされたばかりのタラや活だこを見学し、直販所では山積みされた駄昆布を見上げ、驚いていました。



製氷工場の寒さを体感している生徒たち↑



歯舞漁協事務所にて各部署の紹介→

◆歯舞漁協の概要及びマリンビジョン活動等について



歯舞学園出前授業の様子

歯舞学園9年生の総合的な学習の1つである「地域活性化プラン」の学習において、歯舞漁協の伊藤総務部長が講師として招かれ、歯舞漁協の概要と歯舞地区マリンビジョン協議会の取組みについて紹介しました。

授業では、流氷が退くと小島がそこにあるという意味で、歯舞の由来となったアイヌの言葉「ハ・アプ・オマ・イ」や、貝殻昆布協定が実現した経緯の他、歯舞地区マリンビジョン協議会が取り組んでいる「民泊」などの渚泊推進事業について紹介しました。

北方領土水産学習

8月21日・9月3日・9月29日・12月17日・12月18日

◆見学行程 新事務所 → 製氷工場 → 市場 → 直販所 → 北方領土学習

これまで、歯舞水産物を取り扱っている市場を中心とした組合施設を見学することで、水産業への興味・関心を深めることを目的に、旅行客や学生らの受入れを実施してきましたが、北方領土水産学習は、北方領土返還要求運動の停滞や元島民の減少により、領土問題の風化が懸念される中、北方領土隣接地域として、特に若い世代に北方領土に対する興味・関心を持ってもらうこと、更には、地元水産物を取り扱っている市場を中心とした組合施設を見学することで、水産業への興味・関心を深めること目的に実施しました。

■新事務所（建設中）

新事務所（建設中）の見学では、水産物の安全・安心・品質向上を目的とした高度衛生管理型市場や、今後、高い確率で発生すると予測されている千島海溝沿いの地震から来る巨大津波を想定した防災棟、都市との交流事業による見学者の為の市場見学通路など、令和4年度の供用開始に向けて整備している施設について紹介しました。



啓雲中学校



北斗小学校



啓雲中学校



歯舞学園

■製氷工場

歯舞漁協製氷工場の氷は、魚の鮮度を保つために非常に溶けにくい特殊な方法で作られており、一日に最大30トンの氷を製造する能力があります。

製造された氷は漁協職員の

手作業によって積み上げられ、蔵出しされるまで氷の品質が低下しないよう、徹底的な温度管理が行われ、常にマイナス5度の室温を保っている事などについて紹介しました。

■ 市 場

市場では、漁師さんが水揚げしてから、消費地へ出荷されるまでの一連の流れを説明し、その後、市場にずらりと並べられた真だら、すけとうだら、めんめ（きんき）、活だこ等を見学・紹介しました。真だらは、腹が膨らんでいるその姿から「たらふく」の語源になったと言われています。

活だこは、水揚げをした際に、活きの良いただこだけが厳選され、出荷されるまで活魚水槽で徹底的に管理されている為、消費地に到着した時も活きていること等を紹介しました。



■ 直 販 所

直販所では、歯舞地区で一番多く水揚げされている「なが昆布」や出汁などでよく使用される「あつば昆布」など、昆布の種類や特徴について紹介しました。

また、納沙布岬の崎にある貝殻島という太平洋とオホーツクが混ざり合う好条件の漁場で6月の1ヶ月間しか採ることが出来ない「貝殻棹前昆布」について紹介しました。

■ 学 習 会

学習会では、歯舞漁業協同組合の概要、北方領土の概要、貝殻島昆布操業の歴史の3つに重点を置いて説明をしました。

歯舞漁協の概要では、鮮魚や昆布の年間水揚量・金額の推移について、北方領土の概要では、四島の面積や北方四島がロシアに占領された経緯を説明しました。

貝殻島昆布操業の歴史では、貝殻昆布協定を結ぶに至った経緯、協定を実現・再開させた「高碓達之助先生」「川端元治先生」らの苦悩と功績について紹介させていただきました。



～ おわりに ～

新型コロナウイルスの感染拡大により、毎年恒例となっていた「歯舞おさかな・こんぶ祭り」「漁民泊」など、これまで継続してきた取り組みの中止が余儀なくされましたが、関係者皆様のご協力により「学習会」を実施することが出来ました。

今後も、歯舞地域の活性化に向け、マリンビジョン活動を継続実施して参りたいと思いますので、皆様からの熱い応援とご協力・ご支援を宜しくお願いいたします。

■ 編集・発行・お問い合わせ ■

■ 編集・発行

歯舞地区マリンビジョン協議会事務局

■ お問い合わせ

事務局 担 当：根室市水産経済部水産振興課水産振興担当

電 話：0153-23-6111 FAX：0153-24-8692

